

令和5年度第1回八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議  
議事録

日 時：令和5年8月2日（水）午後1時30分～3時40分

場 所：市役所3階大会議室

参加者：別紙のとおり

1 開会

2 委嘱状交付

委員を代表して委員1名に交付

3 市長挨拶

皆さん、こんにちは。ただいま、委嘱状を交付させていただきました。改めまして、2年間、どうぞよろしくお願ひ申し上げたいと思います。

この総合戦略ですけれども、策定から、もう今年度で4年目になります。本日は、令和4年度の、中間年である3年目の状況の報告というような形で、内容についてご説明をさせていただきながら、皆様からご意見等も頂戴して、今年度あるいは来年度以降の取り組みにつなげていきたいというようなことで、ご参集をいただきました。大変ありがとうございます。

昨年はハロウインターナショナルスクールの開校がありましたし、年が明けて2月には、冬季国体の開催もありました。そして、子育てにあっては、松尾地区に統合保育所が整備され、年度途中も含めて、八幡平市では保育所の待機児童が0になったというような状況もありましたし、また、出生祝金につきましては、昨年度から、出生1人目から50万円給付ということで、県内には無い、現金的な支援を行っているところではありますが、今年度にあつては、国の伴奏型支援ということで、国は、妊娠届出時に5万円、出生届出時に5万円という制度を作り上げたわけではありますが、八幡平市では、去年から始めております出生祝金とその国の制度を組み合わせながら、今年度から、妊娠届出時に10万円、出生届出時に50万円というようなことで、経済的なご支援をさせていただいておるところであります。

また、奥南部漆物語ということで、文化庁から文化遺産の登録をしていただきました。これは、安比川流域においての漆文化が認められたわけではありますが、二戸市と八幡平市が共同で申請をさせていただいて、認めていただいて、もう今年で4年目になります。我々、隣同士の自治体でありながらも、横軸連携と言いますか、二戸とは広域的な地域が違うということで、我々は盛岡広域、二戸は県北の広域ということで、なかなか連携する場面がなかったわけではありますが、この漆の文化遺産登録によって、これまで一緒に4年間取り組んできたわけではありますが、色々な意味で、二戸市とこれから連携していける部分も見えてきたなという風に思っております。そう

いった県北エリアとの交流も含めて、八幡平市は、大きな期待を、県北のエリアの市町村からもいただいているところもあります。この取り組みを広げながら、色々なインバウンド対策も含めて、注目されている部分を、八幡平市のみならず、県北エリアにも波及させていきながら、こちらの方にも観光客等の誘導を図りながら、県北全体を盛り上げていきたい、そういった思いで、この奥南部漆物語も取り組んでいるところでございます。

そういったような状況の中で、これまでも皆様にご説明を申し上げてきましたが、令和2年に出生数が87人ということで、初めて2桁になったということ、これは何度もご説明している通り、非常に大きな危機感があります。令和2年ですから、もうその子どもたちは3歳になるわけでありまして、12年後には高校に入学する。その時にはもう、87人しか中学校を卒業する生徒たちがいないという状況が、現実になってきています。そういうことも含めて非常に大きな危機感を思っていたというところでありますが、統合保育所、あるいは、先ほど申し上げました出生祝金の効果とは言いませぬけれども、令和3年には98人、そして令和4年は93人ということで、少し持ち直した感があります。そういう中で、さらに申し上げますと社会増減についても、これまで転入と転出の差がもう200人前後というような状況できていたものが、令和4年にあってはマイナスの24人ということで、ここは劇的に、4年度については改善されたところでもあります。ハロウの効果もあると思います。ただ、ハロウの生徒たちの、外国人の登録されている方については、この人数にカウントされていませんので、実質的にはプラスになったというようなことがあり得るという風に思っています。厚生労働省の管轄である社人研の平成30年の推計では、八幡平市においては、令和2年は23,845人であろうという推計が出ていましたが、これが国勢調査では24,023人ということで、私が記憶している範囲では、初めて社人研推計を国勢調査が上回ったというようなことで、減ってはいる中ではありますが、改善の兆しが見えてきたというようなことは言えると思っています。まだ人口ビジョンにはちょっと及ばないところもありますけれども、これから非常に期待をかける、そして、これからの取り組み次第では、さらに改善できるというようなことを思っているところでもあります。

これから進めていく施策の中では、現在大更の駅前に、仮称ではありますが、顔づくり施設の整備を進めるということで、実施設計がほぼ固まりました。今年度中には入札をかけて、工事は来年度早々に行いながら、令和7年度の年度途中に開所する予定としています。当初は4階建ての、図書館が3階、4階のツーフロア、22億円の事業費ということでスタートをしたわけでありましたが、何度も見直しをしました。そして、当初のコンセプトは当然残したままに、なんとか3階建てにできないかということで、図書館の部分を、特に当初の計画とは大きくは変わらないわけではありますが、今の八幡平市立図書館の蔵書が5万冊あるんですけれども、約10万冊近くの蔵書を行いつつワンフロアに収めるということで、何度も設計の見直しをして、3階のワンフロアに収めることができました。そういったことで、図書館をワンフロア、そして、1番のメインは、2階に子育て支援施設を整備することとしています。屋根付き公園

というコンセプトで、外で遊べる公園を、雨が降っても中で遊べるようなイメージで作り上げてきましたけれども、さらに1歩踏み込んで、花巻のおもちゃ美術館とか、柏台にある施設とか色々、木のおもちゃですとか、木の遊具ですとか。やはり八幡平市の木の魅力、8割方森林なわけでありますので、そういった意味でも、木の魅力を伝えるという観点からのそういう整備を、2階に整備しようというようなことで色々検討してまいりましたし、あるいは、子ども、乳幼児検診もその場で受けられる、子育て相談等々色々なことを、その2階の部分でできるというようなこと、これを目指してきました。いわゆる子育てワンストップサービスの施設というようなことを目指してやってきましたので、私としては、そこをこの顔づくり施設の核として、市内外から、子どもさんを含めて親御さんもたくさん来ていただいて、賑わい創出の一助になるというようなことで考えて、今行っているところであります。

それから、花輪線の、JRの赤字問題、これが去年からクローズアップされてきました。具体的にはまだ今動いているわけではありませんけれども、また、JRの方からも具体的にどうするという話は今はないんですけども、喫緊の課題としては、赤字問題とは別に、荒屋新町の駅が無人化になって、もう築95年以上にも達します。そういう中で、地元の若い方々が、駅舎をそのまま残したいという地元の思い、その中で、内部をリノベーションしながら、あの地域の活性化に結びつけるようなことができる施設にしていきたいということで、色々、商工会の青年部の方々を中心として、議論を始めています。我々もそこに一緒になりながら、荒屋新町の駅の周辺も含めて、あそこを拠点にしながら、少しでも、地域の活性化につながればいいなというようなことで進めているところであります。

また、スパルタキャンプということでIT人材の育成事業を行っていましたが、今、大更の駅前に起業家支援センターということで、スパルタキャンプを終えられた人たちを中心に、そこで起業をして入居している方が、もう13社になりました。もう満杯になって、次の2号棟を作るというようなことも今計画をしています。そうやって若い人たちが、まだまだ個人での起業がほとんどなわけではありますが、そういう起業の機運もますます醸成していきながら、若い方々の流入にも繋がっている、そういった好事例になってきているものと思います。

さらには、過日、岩手日報の一面に出たわけでありますが、松尾地区に鬼清水工場適地というところがあります。ここは実はもう7町歩近くあって、松尾インターに隣接する場所ということで、非常に利便性も高く、企業誘致するにはもってこいの場所でありました。ただ、今まで、サッカーとかラグビー場にも使っていたので、そこの調整をどうするかということもありましたが、色々協議しながら調整を図って、ここに地元の企業さんが電気自動車の部品工場を、その7町歩を使って3棟整備したいということで、喫緊に行いたいということも含めてですね、そこをお譲りし、そこに大きな工場を3棟建てる。そういったことで、あそこの活用がようやく図られたというようなことであります。

あと、再生可能エネルギー等も色々な動きもあります。いろんなそういう動きの中

で、これらをしっかりと市政発展に結びつけていく。これが、現状では大きな課題でありますし、また、大きな夢でもあるという風に思っています。繰り返して申し訳ありませんが、今日は具体的な数値も見ていただきながら、これまでの取り組みの成果と、今後に向けての課題等を共有しながら、皆様からいろんなご意見をいただいて、さらに総合戦略を身のあるものとして、人口ビジョンの目指すその人口に近づけていけるように、さらに頑張っていきたいと思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(企画財政課長) ありがとうございます。ここで、次第にはございませんが、今年度から新たな委員の初顔合わせとなりますので、委員の皆様方より自己紹介をお願いしたいと思います。配付しております名簿順をお願いしたいと思います。

～自己紹介～

続きまして、市側の出席者を私の方からご紹介いたします。

～出席者紹介～

どうぞよろしくお願いいたします。それでは、議事に入らせていただきます。議事の進行は、会長、副会長が選任されるまで、佐々木市長にお願いします。

#### 4 議事

##### (1) 会長・副会長の互選について

(市長) それでは、会長、副会長の互選についてであります。八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱第5条の規定によりまして、会長、副会長は、委員のうちから互選することとなっております。これにつきまして、どのような方法で決定したらよろしいか、皆様にお諮りをいたしたいと思っております。いかがでしょうか。もし特になければ、事務局から提案させていただきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(全委員) 異議なし。

(市長) ありがとうございます。それでは、事務局から提案させていただきます。

(事務局) はい。それでは、事務局案を提案させていただきます。会長には株式会社イノベーションラボ岩手の小野寺委員、副会長には岩手県立大学の山本委員を推薦したいと思います。

(市長) それでは、お諮りしたいと思います。ただいま事務局案が提案されましたが、会長に株式会社イノベーションラボ岩手の小野寺委員、副会長に岩手県立大学の山本委員が、事務局案として提案されましたが、事務局案のとおり決定してよろしいでしょうか。

(全委員) 異議なし。

(市長) ありがとうございます。それでは、会長に小野寺委員、副会長に山本委員が互選されました。

(企画財政課長) はい。市長、ありがとうございました。小野寺委員、山本委員はそれぞれ会長席、副会長席におつきいただきたいと思います。

(会長・副会長) よろしく願います。

(企画財政課長) ここで小野寺会長からご挨拶をいただきたいと思います。よろしく願います。

(会長) 改めまして、皆さんこんにちは。ただいま、会長の任をいただきました小野寺と申します。このまち・ひと・しごとは、スタートする時から会長をしておりまして、当時は市長さんがまだ、課長さんでしたかね、という時代からずっとやってまいりました。それで、2040年に八幡平市は、少し減少するので18,800人の人口をキープしたいと。当初は確か市長さんが、副市長さんか課長さんの頃ですかね、第2期のちょっと直前で、18,800人はとても順守できないのではないかとというのが市の中で議論にあったように記憶をしております。

ただ、このまち・ひと・しごとの計画というのは、私がよく申し上げるのは、これは市をあげて、行政の計画ではあるんですけども、行政だけの計画ではなくて、まち全体の人たち1人1人が主体的に関わっていく。当然、子育てとか子どもを産むって、行政ができるわけではないですから、そういうお母さん方、それから若い独身の方々の意見をどんどん市の方に出していただいて、それで市の施策を変えて、また皆さんが1人1人お互いに声をかけて、1人でも多くの方が八幡平市で明るく輝く、そのような生活を送っていただくことがまち・ひと・しごとの大きな役割になるわけです。

従いまして、先ほど市長さんから話がありましたけれども、少し明るい希望がちょっとだけ見えてきたかなというところを、今日は少し後半で議論させていただきたいという風に思いますし、まだまだ、第2期の計画ですけれども、ちょうど5年計画のうちの真ん中の時になるわけですが、やはりなかなか目標を達成できないという事業も随分あります。そういう事業を見ていただきながら、皆さん1人1人に意見をいただきながら、どこをどういう風にしていったらいいのか、また新しいことをどう入れ

たらいいのかというようなことを、ぜひご議論いただきたいなと思います。

皆さんが一緒になって作る計画でありますけれども、行政の計画でもありますので、行政の計画の中に入れるためにはそれなりに時間がかかります。今日言ったから明日からすぐできるっていうものではありません。ですから、しっかりと今から、ちょうど中間年の評価の時に、今から議論を盛り上げていきながら、こういうのが次の計画にあるといいなという風になるわけです。まち・ひと・しごとの計画自体は、5年間を1つの区切りにして、ローリングっていう風にしていきます。ですから、2040年を目標において、18,800人の八幡平市の人口を保つというか、そこに到達していくためには、5年毎にどういう事業をしていったらいいのか、5年で達成したものについてはさらにより良くまた上の目標を掲げるだろうし、もういいものについては次の計画から抜いていく、達成できていないものはなぜ達成できていないか、それをみんなで議論しながら、達成できる方策、またはより良い代替の政策があれば、それを皆さんからご提案いただいて、それを入れていく。そういうことで、20年、あと17年ぐらいありますかね、あと3回ぐらいこの計画を作り出すことができるわけで、その中でどんどん変えていきながら新しい施策を入れていく。それで、2040年に18,800人の八幡平市の住民がにこやかに、さらには交流人口がどんどん増えてきて、活性化していく、そういう地域を目指していくんだと、そういうことを委員の1人1人がお考えになっていただきたいということを申し上げまして、就任にあたっての私の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

(企画財政課長) はい、ありがとうございます。ここからの進行は会長にお願いいたします。

(2) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略令和4年度指標評価・分析について(会長) よろしく願いいたします。それでは議事に入りたいと思います。今日は、2時間ということで時間をいただいておりますので、あと1時間半弱ということになるかと思います。まず、4の議事の(2)ですね。第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略令和4年度指標評価・分析についてということで、事務局からお願いします。

(事務局) 資料説明(基本目標1、2)

(副会長) ここで、委員の皆様からご意見をいただければ。

(会長) はい、ありがとうございます。今副会長さんから提案があったとおり、多いので、少し整理をしていきたいと思います。皆さんの方から、何かここは気になるなというところがありましたら、ぜひお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

基本的に3時半までの予定で、最後の30分ぐらいは、特に大事な人口の動態について、今、市の方でも、なぜ人口減少が鈍化し始めているのかっていうのがよくわかっ

てない。で、そこをどうやったら反対攻勢いけるだろうかっていうところがよくわかっていないので、ぜひ皆さんから意見をいただきたいというのが、今日1番の大きな目標になります。

実績については、いろんな項目があっとなかなか分かりづらいところも多いかと思えますけども、ぜひ、各専門分野でここを聞きたい、それから、これはこうだろうというようなところがあったらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

例えば、私の方から少し聞きたいんですけども。JA 新いわて青年部の委員さんがいらっしゃいますけども、資料1の、農業産出額はAをいただいているんですけども、下の方の個別では、野菜販売額がCになっているんですよ。これはどのように見えますでしょうか。

(委員) 天候の問題が1番になると思います。野菜に関しては、本当天気によるところが大きいので。生産者が減っているっていうことの他に、やっぱり天候が1番なので、安定的なことを言うのであれば、ハウスを使った栽培だったりっていうのは効果を生むかなど。ただ、やはり露地の野菜も当然大事ですし、大抵の農家は露地でやっているんで、ハウスでやるっていうのはいろんなお金がかかってくると思うので、現状、今、農家としては、できることをやっている。

(会長) わかりました。何か、もし、JAさんとして、青年部として、市の方にこういうことができればもっと全体でいいよねっていうのがあったら、中で少し議論していただいですね。

(委員) 今、市の方でもやっているとは思うんですけども、新規就農者ばかりを強く支援するのではなく、現状残っている、頑張っている、親元就農だったりっていったところにも、支援をちょっと大きくしてもらって。新規就農者を受けるのも大事なんですけども、今残っている人たちが辞める、息子がいたとしても、これじゃ食っていけないから辞めるっていうところをなくする方向の方がまず大事じゃないかってちょっと思います。

(会長) はい、ありがとうございます。こんな感じですね、皆さんには聞いていきたいという風に思いますので、よろしく願いいたします。それ以外に皆さんの方から何かご意見等ありましたら。はい、どうぞ。

(委員) はい。確認ですが、このプロジェクト⑤の子育て支援プロジェクトの、出産祝金の50万円の支給ですけども、これは出産時にある程度40万くらいお金がかかっているんですが、そこに割り当てられる市からの援助の金額がこれに当たるのか、その他に50万円が来るのか、教えていただきたいんですが。

(市長) はい。ただいまおっしゃった40万ぐらいっていうのは、出産時に病院に払う分がってことですよ。それは、今年の4月から、出産育児一時金ということで、健康保険の方からの42万円が50万に引き上げられたので、それは50万給付となります。で、市でやっている、ここに記載しているのは、妊娠届出時5万円、出産後に5万円、そして祝金50万って言いましたけれども、先ほど私が挨拶で言った通り、今年度からは、妊娠届出時に10万円、そして出産後50万円ということにして組み立て直しました。で、その一時金とは別立てです。あくまでも、出産一時金というのは、出産にかかる病院の費用なので、50万という区切りの中で、医療機関によっては55万かかるところもあるんで、そうすると赤字5万円、45万で済むところは黒字5万円、まあ、実際出るお金。で、こっちの60万というのは、例えば、生まれてから保育所、小学校に入るまでに、昔と違ってチャイルドシートは今65,000円もかかったりとか、いろんなものにかかる費用として、支援していくと。で、よく言われているのが、小学校に入ると給食とかで給食費無料にしろという話もありますけれども、給食費等については、もう、所得によって無料化されているような状況になっている世帯がもう2割ぐらいあるんですね。ですから、そういったことも勘案して、この出生祝金で、所得に関係なく、生まれたら60万まで支援して、安心して経済的に、安心して子育てをしていただきたいという趣旨で始めたものです。

(委員) ありがとうございます。

(会長) よろしいですか。はい、すごく手厚い制度ですね。はい、ありがとうございます。市外県外からどんどん来るとお思いますのでぜひ、よろしくお願ひします。他ありませんでしょうか。

(副会長) はい、よろしいですか。地熱の活用で、温泉を引っ張ってきてバジルの栽培を行っているかと思うんですけど、バジルの栽培が始まってからもう数年経つかと思うんですが、それ以外の作物、それ以外の野菜の栽培への展開ですとか、そういった点でもし情報をお持ちでいらっしゃったら教えていただきたいんですが、いかがでしょうか。

(農林課長) はい。温泉と熱水ハウスのご質問かと思いますが、熱水ハウスの箇所は2箇所ございますが、大規模に、高石野団地の方でスマートファームさんの方でバジルをおやりになっておりますが、スマートファームさんは、面積的には現状のままです。もう1箇所の上寄木の方は、組合員数は、実際におやりになっている方5でございます。さらに、ちょっと実験的に色々な作物をおやりになっている企業さんが1社ございます。どこまで商業ベースに乗っているかっていうところまで調べてはおりませんが、あと、個人の方で組合に入って利用をやりたいという方は、ちょっと動きがないというような状況でございます。以上でございます。

(会長) よろしいですか。

(副会長) はい、ありがとうございます。

(会長) 他はいかがでしょうか。

(委員) はい、すいません。PTA から出ていますけれども、ちょっと地熱関連の仕事をしているので、その点についてお聞きしたいところがあります。プロジェクト②の地熱エネルギーを活かした地域活性化プロジェクトの、子ども地熱探検隊、高校生地熱探検隊、私もずっと長年これを見てきていますが、その内容のアップデートであるとか、発展性といったところをどういう風に考えているのかをお聞きしたいですし、あと、地熱モデル地区事業の成果品、データブック、マスター養成テキスト、ヒストリー動画、アーカイブサイト作成されています。確かに作成されていますが、これは活用するっていう前提で作成したはずなんですけど、その活用がどうなされているのか、どうしていきたいと思っているのかをちょっとお聞きしたいなど。まあ、コロナ明けなので…。私、この養成講座受けているので、地熱マスターという認定書ももらっているんで、その名前を使って、先日エコキャンプの講話を担当いたしましたが、なかなか、そういう活用していく、せっかく作ったものが活用されていないなど思っているんで、そこら辺もちょっと含めて、お話を聞きたいなと思います。

(まちづくり推進課長) はい。このエネルギー関連の仕事ですけれども、今回、まちづくり推進課の方に4月から移管になって、また新たなスタッフで取り組み始めているところがございます。ご意見の通り、実際動きはコロナで止まっているところもありますし、私たちのちょっと勉強不足なところもございますが、今後とも、事業者さんやJOGMECさんとも協議しながら、さらに発展できるように進めていきたいと思っておりますし、あと、視察の受け入れ件数についても、大きな伸びは実際ないのが現状です。発電所のある松尾地区中心に動いておりますので、今後、来年、安比地熱さんの方も開業予定となっておりますので、安代地区など含めまして、市内全域にも、ご紹介していきたいと思っております。あと、今年につきましては、高校の受け入れもお話が結構来てございますので、引き続き、CO2の削減につながるこの再エネの紹介などは、地域の魅力の発見、紹介にもなりますので、努めていきたいと思っておりますので、引き続き、ご協力の方よろしくお願いいたします。

(会長) よろしいですか。あの、アーカイブの活用はどうだったんですか。

(まちづくり推進課長) はい、ちょっとまだ市ホームページとのリンクとか、色々問題があると思っておりますので、今後検討していきたいと思っております。

(会長) よろしいですか。

(委員) はい、大丈夫です。

(会長) はい。あの、非常に八幡平市は地熱というのが1つの売りだと思っておりますので、ぜひ戦略的にやっていただければと思います。他はいかがでしょうか。じゃあ、まだあるかもしれませんが、また引き続き、事務局の方からご説明お願いいたします。

(事務局) 資料説明(基本目標3、4)

(会長) はい、ありがとうございます。あの、ちょっと資料がいっぱいあって分かりづらいかと思います。資料1がありますよね。KPI、Key Performance Indicator っていうのを、まち・ひと・しごとの総合戦略に挙げ、重要指標、これが達成したかどうか、達成すれば最終的な人口の目標に近づけるんじゃないかということでこれをまとめているわけです。資料2の方は、その各項目の説明という形になります。さらに資料3、恐らくこれは、資料1、2だけでは足りなくて、もう少し、やはり政策が流動的なので、もうちょっと具体的な説明を加えた方がいいなと思うものについて入れている。だから、資料1、資料1の詳細である資料2と若干違う項目も入っているだろうという風に私は理解をしております。それでよろしいですか。はい、ありがとうございます。で、見る時には、どちらかという資料1を見ていただいて、まずいっぱい指標があるけれども、この緑で書いているところが、さらに重要指標と言われるやつで、その下にある色のついていないところの全体のゴールがここになるという形になるわけです。ですから、それが、基本目標1では八幡平市の特性を活かした、生きがいを感じる働く場の創造ということで、これはAが大体基本的にあるなということで、中の項目ではちょっと足りないところもあるけれども、全体ではまあなんとかなっているかなというところだと思います。で、次に2つ目の項目で、八幡平市の地で縁を結び、次世代の成長と笑顔を育むというところが、大きな重要指標は3つあるわけですが、これがちょっと厳しいなと、Cがほとんどだなと。これが3年間ずっとCだったなというところ。でも、その下の方にはAもあったりして、じゃあどこが足りないのかとなると、出会いサポートのプロジェクトが3つCだったりとか、そこらへんがちょっと厳しかったかなというところになってくるわけです。さらに、3つ目の基本目標である地域の元気を活かした持続可能なまちづくりということで、大きな指標として2つ入っていて、これは2つともAなので、順調に行っているんだろうなと。で、最後に4の、八幡平市の豊かな自然や絆を活かし、新たな人が流入する流れを創るというところで、ここについては新しい取り組みもあるし、それから、コロナの問題があったので、宿泊者とか観光客については回復基調にあるけれども、Cが2つ、もう1つはB、転入率はBという形になってきているというような

ところについて、今事務局の方からご説明いただいたということで。これが全てうまくいくと2040年に人口18,800人を達成できるかどうかというのがもう1つ気になるわけですが、いずれそういう見方をしていただきたいなという風に思います。

皆さんの方から、分かりにくかったとか、これ質問とかいうことがありましたら、ぜひお聞きいただきたいんですが、いかがでしょうか。はい、どうぞ。

(委員) すいません、私、今期からですので、ちょっとご質問なんです。ここに書かれていないプロジェクトというか取り組みももちろん多数あるかと思うんですけども、既に策定されているプロジェクトに対しての結果であるという風に理解しました。で、質問としては、ここに新たにプロジェクトを足すってことはあり得るのかどうかというのが1つと、もう1つは、仮に、このCをAにする努力より、その新しいプロジェクトでAを作りにかかった方がいいんじゃないかっていう論議もあって然りかなと思ったので、その辺りをちょっと教えていただけたらと。

(会長) じゃあ、私の方から。基本的には2040年までの、当時作った時に25年ぐらいで次の目標を置いて、5年間で回していきます。5年間のプロジェクトは、基本的にはそれはあまり動かさずに、それを見ていくと。で、今日議論したかったのは、次の5年をそろそろ考えなきゃいけないと。今お話になった通り、ちょっとこのプロジェクト、当初5年前は作ったけれども、ちょっと時勢に合わないんじゃないか、これは見直すべきじゃないか、それから、ちょっと形変えるべきだっていうところを、そろそろ議論していかなきゃいけない。で、市としては、これの資料3という、先ほど説明いただいたのが、多分そこに向けて一部はみ出している項目もあるので、これがその叩き台に考えたことかなという風に見ていました。そういう面では、どんどん議論いただきながら次の計画に入れていく。この計画に入れていくとちょっと崩れてしまうので、5年間のローリングはしっかり守って、で、やはりダメなやつはダメだったね、じゃあ、次どうしましょうかっていうところを議論していくという考え方になると思いますので、それでよろしいですか。はい、ということになります。

(委員) ありがとうございます。

(会長) 他はいかがでしょう。今お話あった通り、なかなか、5年前にいいねと思って掲げたのが、やはりなかなかコロナの問題だったりいろんな問題でそうなってしまっ。その一方で、新しいいろんな要件で変わっていく、これから、恐らく事務局から後で話があると思いますけれども、今、国はデジタル田園都市国家構想っていう計画を挙げてきていますから、デジタル化、DX化とかそれからGX化、いわゆるデジタルトランスフォーメーションとかグリーントランスフォーメーションって言われるものを多分これから入れていかなきゃいけないということになると思いますので、そこらへんの議論を、これから活発にぜひお願いをしていきたいという風に思って

いました。

あとは、皆さんの方から、とりあえずこの項目の中で、議論をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。はい、お願いいたします。

(委員) はい。出会い・縁づくりサポートプロジェクトの資料3を見ますと、1つ目に、市がイベントを開催するのではなく、補助事業によりやっていますということ、ま、実際のところ、コロナによってイベントを行う団体がなかったということなんですが、非常にいい取り組みじゃないのかなと。様々な角度から攻めていくっていう面ではいいのかなっていう風に思ったんですが、これ、すみませんが、どれくらいの補助率なのか。あと、もう1つは、コロナだったんですけれども、興味を示したイベント会社があったかどうか、2点お伺いしたいなと思います。

(会長) はい、ありがとうございます。事務局、よろしく申し上げます。

(地域福祉課長) まず最初に、興味を示した事業所さんということだったんですけれども、こちらから市内の法人さん、会社さんの方にお声がけはしたんですが、具体的にお申し込みということではなくて。始まる前に、うちでやってもいいかなというようなお声をいただいたところは1社ありましたが、具体的に取り組むまでにはいっておりませんでした。あと、補助率につきましては、すみません、今少しお時間を頂戴して調べさせていただきます。申し訳ありません。

(委員) はい。補助率についてお伺いしたのは、やっぱり事業所さんは当然、補助率が、非常に興味がある部分じゃないかなと。ですから、その興味を引くような予算化を、ある程度、その市場調査みたいなのをやって、いくらぐらいが妥当なのかっていうのを調査するもの1つの手かなっていう風に思ったところでお聞きした次第でございます。回答はよろしいです。はい、すみません。

(会長) ぜひこれはPRしてやっていくべきだと、というような考え方ですね。

(委員) そうですね。あと、まあ、相対的なんですけれども、先ほど会長さんが5年間ということで、今実際4年目なんですけれども、やはりまだ中途なものですから、これが上り調子になっていくと、成果がやっぱり大きいのかなっていう風に思いますので、今ここでAだBだCだっていうのも、ちょっとこれ、あんまり簡単には言えないのかなっていう風に思ったところでございます。

(会長) ありがとうございます。

(副市長) 補助は定額で、金額はちょっと今わからないですが。

(市長) 出会い支援事業については、市直営で、業者に委託しながら行ってきたわけですが、カップルになった方は、少しずつ、毎年度ですね、何組かあったんですが、最終的に結婚に至るところがほとんどなくて、なかなか厳しいなど。そういう中で、民間企業、団体等に若い人たちが多くて、まあ、市の職員もそうなんですけれども、未婚の方結構いらっしゃる企業さんもいっぱいいらっしゃるの、そういったところで、企業間同士で、1つの企業だけではなくて複数の企業で組みながら交流会やったりとか、そういったことで、結婚にまでも至るような仕組み作りができないのかなという発想から、考えたわけですが、コロナでなかなかイベントができないということで。改めてですね、来年度、この仕組みもですね、再検討する必要があるかなと。本格的には来年度から動き出していけるような、そういった仕組みづくりが必要かなと今思っているところであります。

それから、5か年の計画ということでもありますので、基本的には、会長さんから色々お話がありました通り、この内容で5か年の成果を測るんだと。そして次の計画に結びつけていくというようなことは、その通りであります。一点気になるのは、この指標設定がですね、全てAランクになったからと言って、例えば人口が増えたかっていう話に結び付くかっていうのは、非常に難しいところはあります。さらに言えば、プロジェクトに掲げた政策の推進とこの指標設定が確実にリンクしているかという、なかなか、そこがですね、言えない部分もあるかなと。指標と施策を100%リンクさせるっていうのは、非常に難しいというのは、この2回の総合戦略の策定で感じたところではあります。ただ、その指標を、まずは設定したのに対して5か年かけて達成していくんだという中で、プロジェクトの中に掲げる政策がですね、全然動いていないのも実際ありますし、新しいのも動いているのもありますので、そういったところは、プロジェクトは変えなくても、施策については、ここに掲げたものはあくまでも基本的なことということで、計画期間内でも、まあ、足したりっていうことは、あってもいいかなという風には思っているところであります。

(会長) はい、ありがとうございます。今市長さんからお話あった通り、先ほどのご質問に対しても半分答えていると思うので。この中に入れるかどうかは別に、まず出してもらって、一刻も早くやれるいいものを作っていくんだと。で、それがさらに良ければ、よりブラッシュアップして、強化して、次の、計画に入れていくんだって、多分そういう流れでいけばいいんだろうという風に思います。

そろそろ3時になりましたので、あと30分使ってですね、ちょっと私の方からいくつか課題を出しつつ、皆さんと共有して、その課題に対してお答えというか、なにかいいアイデアがあったら出していただきたいというのが1点ですし、無くても、自分は今後こういうことがあったらいいんじゃないかというところを、ぜひ出していただきたい。それは、八幡平市がより生き生きと輝いて、2040年に18,800人という人口で、これはマストではなくて、我々がそこに向かって努力していくんだという考え方

だと思えます。

で、ずっと私自身が気になっているのが、基本目標2の八幡平市の地で縁を結び、次世代の成長と笑顔を育むの中の、15歳から39歳の女性人口が、これは岩手県全体の問題だと、多分後で副局長さんからお話出るかと思えますけども、これがやはり、若い女性が地元を去って仙台、東京に行ってしまうということは、この地に魅力的な仕事がないのか、魅力的な男性がいないのか、いろんな課題があって、やはり若い女性が過ごしにくいと思っているのか、ただ単に東京というところに憧れて行くのかというところが1点ですし、それから、今日は副校長先生いらっしゃいますし、平舘高校の子どもたちが、地元定着志向がすごく強いと。ただ、その一方で、なかなか定員を満たせていないという課題もあるんです。そういう高校生、中学生がもっとやはり地域で生き生きして、八幡平市いいよねと、いっぱい出て行っても戻ってきてまた八幡平市で頑張ろうねと思うような若者が出てこない、やはりなかなか難しいなという風に思っています。

この2点、私からの命題として、それ以外も結構ですので、ぜひご意見を皆さんからいただきたいなという風に思っています。じゃあ、こちらから行きましょうか。ぜひ女性の、特に若い女性の目線からですね、ぜひ議論いただきたいなという風に思っています。

(委員) はい。私にはちょうどこの年頃の子どもがいるんですけれども、その子どものために、あと下の子どものためにぜひ考えていただきたいのは、パートナーシップ制度の確立。そして八幡平市でも、それを認めていただけるような方向性を考えていただきたいということ。八幡平市は、住むにはすごく安全。安全は、防災の面で。これから来るであろう大地震が、やっぱり首都圏の方はあるっていうことを考えると、八幡平市はそこはやっぱり安全だよなっていうことを話をしていました。ただ、うちの子がこれから先生きる時に、やっぱりそういう制度があること、あとは、私の周りの子どもたちもちょっとそういう風な考え、多様な考え方を持っている子たちが多いので、そういう子たちが受け入れられて、生活できるような環境が、果たして八幡平市にあるのかどうか、表面的には分からない。なので、防災はすごくいいから、ここに住みたいけども、うん…っていうことは話はあったので、うん、じゃあそういうことをお母さん今日ここで喋ってくるよ、って言ってきたので、ぜひちょっとご検討というか、これから考えていただければなど。

(会長) はい、ありがとうございます。非常に重要な視点だと思います。多様性とか、パートナーシップとか、防災の関係も、本当にありがとうございます。先ほど市長さんが言った50万円のとか、そういうのをしっかりとですね、皆さんにPRしてほしいなという風に思っています。では、次お願いいたします。

(委員) はい。そうですね、結婚して、子育てして、ということ考えた時に、PTA

なのでいろんなお母さんたち、お父さんたちの話を聞くんですけど、やっぱり仕事、働く場所ってところが、第一に出てきますね。あの、子育てがしやすいという話も聞こえます。やっぱり環境がいいのと、支援が、医療費とか、そういったところの支援ってというのが、当たり前のように私たちサービスを受けているので、改めてこうだよって言うと、いややっぱりいいよねって言うようなことがあるので。もっともっとやっていったらいいなと思うのは、知っている人が、市ってこんなにサービスいいんだよって言うその情報発信を、インターネットだけじゃなくて、口コミみたいな形で、知っている人がどんどん広めていくっていうのも必要かなと思いますし、仕事の面では、選んでいるのか、ないのか、そこらへんはちょっとやっぱりわからないんですけども、求めているものがないと思うのかっていったところが、さっきの高校生とか大学生の話じゃないですけど、憧れている職場、ここにはないのかもしれないしって話になってくるのか、そこらへんはちょっとよくわからないんですが。私、平館高校さんの授業のコーディネートをさせていただいて、最初に、4月の時点で高校生に八幡平市の魅力って聞くと、1個、2個しかキーワードが出てこないですね。例えば、西根地区で中学校まで過ごした子はほうれん草っていうキーワードだったりとか、松尾地区で過ごした子は、松尾鉱山とか温泉って出てくるんですけど、それを4月から年度の終わりの時点で増やすことを目標にというか、そんな感じでやらせていただいているんですけど、いろんな人とかものとかに触れさせる体験をすると、人に会って話をすると、こんなに頑張っている人がいるんだっていうのを子どもたちが見ると、意外と八幡平市いいところじゃないか、と言うんですが。今度企業側からすると、もっと雇用を生み出すような仕事を頑張らなきゃいけないなというところもあるので。あの、なんか全てが繋がってってしまうので、これという意見もないんですが。環境がすごくいいので…先ほど言った多様性、特にあの、学校に行けてない子ども、そういったところの支援が、数ではなく1人でもいたらそこに対応するとか。あとは、発達障害とか支援校に通っている方々へのサポートとかも、保護者さんから聞くとかなり厳しいところがあるっていう話を聞いていましたので、そういったサポートをすると、八幡平市にいれば安心、それこそ本当に安心してこの地で小学校から高校まで過ごせるんだな、ちょっと何かがあっても、ちゃんとサポートが受けられるんだなっていうようなところを目指していけば、ちょっと外からも来るのかなとか思ったりもします。あとは、中学校統合の問題とかもあると思うので、今まで通りのありきたりな中学校ではなく、八幡平市らしい地域学習を取り入れたような、ハロウがあるので、そういった魅力を取り入れた中学校を作ると、外からの評価だったり魅力だったり、内側の地域力のアップっていうのにも繋がっていくのかなと思っています。以上です。

(会長) はい、ありがとうございます。こちらの、課長さん方に一言。今委員さんから色々出てきますので、まとめていただいて、自分の課で答えられるものについては答えてもらいますので、よろしく願いをいたしますということを付け加えて。

じゃあ、次どうでしょう。

(委員) さっき発言しましたので。

(会長) じゃあ、はい、後で時間があれば、いただきます。

(委員) はい、ちょっと難しい問題なんですけれども。この地域は非常に、私個人的にも魅力がある地域だと思っています。でも、やっぱり若手、若い若年層、女性が離れているというのは、何か理由があるんだと思うので、まずは何が理由なのかっていうところ、原因を突き止めるところ。あとは、ここの地域だけじゃなくて、私も去年まで人事部にいたんですけども、高校もそうですけども、就職者というか、最近高校からの就職がだんだん減ってきて、進学の方が多くなってきている。そういったところで、大学卒業した後に、いかにこっちに引き込めるかっていう環境ですか、そういったところの分析というかですね、何が足りないかっていうのをこう解明していくことが必要なかなっていう…ま、それからかなとも。ちょっと難しくして、言葉がないんですけど。

(会長) ありがとうございます。じゃあ次お願いいたします。

(委員) はい。あの、私はまだ八幡平市を把握できてないというところが多々あると思うので、わからないでお話するところがあるんですけども。この春からお客様を見ていて、ちょっと気になったところが1つあってですね。例えば、八幡平市で生まれ育った方なのに、八幡平市の企業に勤めているのに、住んでいるのは盛岡、とかですね。そういったケースが、ちょっとよく見るケースがあって。それはなんなのかなって思うと、様々な、確かに理由があるとは思んですけど、例えば1つは子育てだったりとか、例えば、部活の種類が多いとかですね。ま、これは八幡平市に限ったことじゃなくて他の地域でもある問題だとは思んですけども、やっぱりそういったところで何か対応ができれば、もしかしたら、八幡平市に住んで子育てするというようなケースも増えたりできるのかなっていうのはですね、漠然と考えたりしたというか、今、お話聞いていて思い出しましたので、意見として述べさせてもらったというところであります。

(会長) ありがとうございます。じゃあ次、お願いしてよろしいでしょうか。

(委員) はい。私個人的には、この空き家バンクのマッチング数というところで、これが目標値10に対して20。思いのほか、達成率もというか、数値も高いんじゃないかなと思ったんですけども。この数か月間で、うちの銀行にお2人ほど、この空き家バンク…なのかどうかちょっとわからないですけども、全く他県から移住されてきた

という方、その方どちらもリタイアしたっていう方で。家族ごと、夫婦で2人とかっていうことではなくて、おひとり身の方が、なんかそういう情報から、この地がいいんじゃないかなということ由来たというようなお話を聞いたんですけども。この20件のうち、この内訳と言いますか、どういう家族構成だとかなんかっていうのは、これもちょっと気になるところでございまして。仕事の関係だとかいろんな問題があって、家族ごところちの方に転居っていうのもなかなか難しい面はあると思うんですけども、移住することによってのインセンティブとかメリット、そういったものっていうのは何かあればなという気もしますし、やはりその、女性がどんどんいなくなっちゃって、若い女性がいなくなると、出生数も少なくなるといったところに、やっぱりじゃあ他からもう家族ごと持ってくればいいんじゃないかっていうことで、楽観的というか、単純な考えなんですけども、やっぱりそういうことも考えていかなきゃならないんじゃないかなという風に思いました。

(会長) はい、ありがとうございます。空き家バンクに住んでいる方のどういう状況なのか、それから支援制度ですね、そこらへんについて、あとで事務局の方から答えてもらいます。はい。じゃあ、次お願いいたします。

(委員) はい。平館高校、非常に、八幡平市の今後に大きな責任を持っていると思うわけなんですけども。高校生、今現在132名です、在籍数。それで、なぜか女子が少ない学校になっているんです。男子が、もう半数以上ということで。生まれた子どもの男女比っていうのはどうなのかなっていうところはちょっとわからないところなんですけども、今現在の状況は、そのような状況です。普通科と家政科学科があるという学校で、地域の、商工会の方々からも、そして、先ほどの委員さんもコーディネーターとして、本当にこう、面白い授業をですね、展開できている学校だなと思います。けれども、まずそれが、生徒の入学に繋がらないっていうことで、本当に私たちもなんとかしていかなければならないなど。実際に子どもの数は減っているのですがないっていうところはありますけれども、でももう少し、地元で中学生残ってもらえるようになんとかしていかなければならないなどということで、岩手県の教育委員会が取り組んでおります、岩手留学ということで、県外の生徒さん呼び込もうということで、平館高校以外にも、大槌高校さんとか、遠野高校さんとか、葛巻高校さんとか、取り組んでいるところなんですけども、その岩手留学を取り入れている学校の方々の半数以上が、一般財団法人の地域・教育魅力化プラットフォームという財団の力を借りて、PR活動を大々的にやっております。まだ平館高校は、そこに乗ることができていないですね、その財団法人の協力を得るためには、ちょっとお金が必要になってくるわけですね。でも、教育振興費の補助もいただいておりますので、もう少しこう、上乘せしていただくような形で、この財団の力を借りてでも、1回、挑戦してみる価値はあるかなっていうようなあたりを、今年参りました新校長が、少し考えているところなんです。やっぱり外部の人材が入ってくると、生徒たちの成長もかなり刺激を受けて、

いいものになっていくのではないかなというようなところがありまして、校内で、今、少しそういうところを考え始めたというところでもありますので、今後、もう少し八幡平市の教育委員会の教育長さんと相談しながら、そこは考えていけばいいなと思っているところです。学校という狭い中で仕事をしておりまして、本当にこう、全体的な意見が申し上げられなくて本当にすみませんけれども。

(会長) はい、ありがとうございます。はい、高校が輝くことが地域が輝くことに繋がりますので。

(委員) はい、ありがとうございます。本当にそう思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

(会長) はい、後で、教育委員会の方でお答えいただけたらと思います。はい、それでは、次お願いいたします。

(委員) 15歳から39歳までの女性人口でというのと、うろ覚えなんですけれども、国として働き方改革、大体8年くらい取り組みが進んでいるかと思うんですけど、働き方改革を進めようという時に、中央委員の先生のお話なんですけれども、地方から都会に出ていきますといった場合に、男性は案外戻ってくるんですけど。女性はなかなか一旦出ると戻ってこない、先生がおっしゃってました。我々労働行政ですので、雇用の状況を日夜掌握しているんですけども、高校生は、岩手県内ですと、ま、岩手県に限らず地方の場合、非常に地元志向が高く、県内でも大体7割が地元に残りたいという風におっしゃいます。平舘高校さんの場合も、さらに高いと思います。ただ、問題はですね、先ほどどなたかおっしゃっていましたが、進学率が非常に高くなってきましたので、進学する方々がどれくらい戻ってくるか。地元の大学に入れば、高卒よりは若干落ちますけれども、大体4割くらいは地元に残るという傾向が出ています。ですので、その進学率が高くなった子たちに、どうやって地元を振り向かせられるかっていうのが大切かと思えます。そうするためには、就職をここでするという場合には、大体2年生ぐらいから就職対策ということでいろんな取り組みをされるかと思えますけれども、進学の子たちは、そういった取り組みってというのは、やはり大学に行ってからということになるので、離れた子たちにいかに地域とのつながりを維持していくのかということが、もうみんな考えていかなきゃならないという風に思います。実際に、小学校の頃から地域の魅力を発信されたりとかっていう、これは非常に素晴らしい取り組みだと思いますけれども、やっぱり高校生ぐらいから、地域の企業をご紹介したところで、県外に行きたいという考えを地域に引き戻すのはなかなか難しいんですね。そうするとやはり若年、小さい頃からですね、地域に住むことは、非常に楽しく、生涯暮らせるよねっていうことを、地域みんなでこぞって取り組んでいく必要があるな、それを継続していくのがいいなという風に思います。

あと、他の地域からこの地域に、いわゆる地元出身者以外の方を、Iターンですね、引き寄せる場合に、地域の企業がうまく情報を発信するって、中小零細ではなかなか難しいと思いますので、取り組まれているとは思いますが、プロモーションをちょっとお手伝いしてやらなきゃダメかなっていう風を感じています。この岩手県内でも、1番は盛岡が人口も多く、働いている人も当然多いんですけども、最近は県南の北上地域を中心に、県南地域の方に若い方が盛岡からも流れてしまう。じゃあ、なぜ県南地域に流れていくかっていうと、規模の大きな企業があって、福利厚生が充実しているっていう点もあるんですけども、プロモーションがものすごく上手なんですよ。もう、YouTubeで、例えば食堂から細々としたところまでですね、そういうSNSを活用したプロモーションとかってというのが上手なので。ただ、それは大きな企業だからできることかもしれませんけれども、そういうところに行政、地域、こぞってですね、パッケージでやったってもういいと思うんですけども、そういうことに力を、これからさらに入れていく必要があるなという風に思いますので、申し上げさせていただきました。

(会長) ありがとうございます。八幡平市は地域の人事部っていう形で、地域企業さんを横断的に、人事部で、要するに地域に人材を定着させようという動きもありますので、ぜひそこらへんハローワークさんと連携ができればいいと思います。よろしくお願いいたします。それでは、次お願いいたします。

(委員) はい、いろいろ丁寧にご説明大変ありがとうございました。質問じゃありません、所感になります。資料4にある、社会増減が令和4年24人ということちょっと驚いたというか、嬉しいニュースだと思いますが、元年に比べれば10分の1になっているということで、かなりこれは分析する必要性があるのかなと思いつつ、ハロウのことを考えれば、転入が50人ぐらいしか増えていないし、むしろ転出が100、5、60、80ぐらい減っている。これはちょっと引き続き、八幡平市と県の方で分析させていただきたいと思います。一方で、全県の要因として、八幡平市さんだけでなく、18歳の進学時就職時、22歳以降の大卒就職時による人口の流出が顕著だということは、全県的な傾向、弱点であろうかとは思いますが。職業選択とか進学で学びたいっていう人にやめろというのは変なので、やはり帰ってきてもらうっていうことが必要になるかと思えます。そのためには、どうしてもやりたい仕事の企業がなければ仕方ないのかもしれませんが、地元の企業を知ってもらう、また、企業側も単なる処遇面、金融面だけじゃなくて、子育てとか働きやすい環境とか、働き方改革も進んでいますので、そういったものを企業が、行政側も後押ししながら、企業さんにも理解していただいて、若い世代に帰ってきてもらうような企業を増やしていくことが必要のかなと考えておりますし、コロナの影響もあり、逆に距離のハンデがなく、起業家支援センターの2号棟も建設されるような話ではありますが、今は距離のハンデがなくとも仕事ができる時代、テレワークとかできる時代になっていますので、そういったも

のを八幡平市さんと一緒に、DXの推進じゃないですけど、そういったITの部分も進めさせていただければ、より魅力ある企業なり八幡平市に戻ってきて働きたい職場、職業が増えていくのかなという風に考えて、感想として持ったところでございます。いずれ、人口減少対策は八幡平市含め全県の課題であり、対策が必要になっていきますので。一口に人口減少対策といっても、社会減、自然減でございます。自然減の場合は、先ほどの顔づくり施設、出産時の経済的支援、プラス出産した後の子育てしやすい環境づくり、そういったものもセットになってやることによって効果が発現されると思いますので、そういった取り組みも、全国的にやれるのか、県も後押ししながらですね、取り組み進めてまいりたいと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたしますと思います。以上です。

(会長) はい、ありがとうございます。だいぶちよっと時間が迫ってきたので、1人1分くらいですいませんが、よろしくお願いいたします。

(委員) やりたい職場がない、いい男がない…まあその通りなのかなと、早い話が。青年部としても婚活パーティーとかは行っていますし、ただ、結婚に至るケースがあまりないといったところで。自分たち農業者としては、今小学校の田植えとかの学習もやっていますし、子どもたちから見て、かっこよく儲かる農業を目指していますんで、将来、その姿を見て、農業をしたいと思ってもらえるような、魅力のある農業をやっていききたいなと思います。以上です。

(会長) はい、ありがとうございます。次お願いいたします。

(委員) 先ほど委員の方から、八幡平市内の企業で働きながら、他市に住んでいる…もろ私のことです。なぜ滝沢を選んだか。基本的に滝沢、盛岡、八幡平市、ほぼ車でいくらでも移動できると思うんです。そういった中で、じゃあ、消去法でどこが一番便利か。盛岡はちょっと都会すぎるから、八幡平市はちょっと田舎でなかなか出張とかも厳しいから、滝沢がちょうどいいかもみたいな感じで。もう家も建てちゃったんでちょっとさすがに移れないんですけども、そういったところで。先ほど空き家バンクの話もありましたけれども、そういった住むところというのは非常に大事かなと。あともう1つ、会社運営しながら感じているのは、高校卒業してから、またさらにその地元の企業に就職するのではなくて、大学なり一度社会に出て、知恵というか、社会経験というのも十分に積んでいただいた方が、企業に入って力になる。今時、DX、IT 進んでいますので、それなりの知恵がなければ社会人として生き残っていけないと、私はすごく感じている。そういった意味も込めて、先ほど委員の方から、県外に行った人はなかなか戻すのは難しいと。であれば、岩手県内にも、岩手大学、県立大学、十分な高等教育受けられるところがありますので、そういったところへの、子育て支援のそのさらに一歩上の、進んだ、高等教育を受けるための支援っていうのも必要な

んじゃないか。さらに、八幡平市の場合はハロウインターナショナルスクール、ちょっとその教育レベルがどの程度かっていうのはわからないですけども、そういったところにも、行政あげて、補助金なりなんなりとかして…ちょっとそこまでは言いすぎかもしれませんが、ちゃんと卒業したら市役所で働いてくださいねとか、八幡平市内の企業で働いてくださいねっていうような形での補助金っていうのはすごいいいんじゃないかなっていう風感じて。すいません、いろんな話をしようと思ったんですけど、時間がないので。

(会長) はい、すみません、ありがとうございます。大変いろんな貴重な意見、ありがとうございます。では次お願いいたします。

(委員) はい。私たち、観光の事業者なんですけども、観光の業界っていうのは、コロナを終えて今、空前の人手不足というものになっております。当然、こういった減少に関しては雇用で戻すっていうのが1番適切な考えだと思うんですが、我々事業者にできることとしましたら、若い子たちが働きたいと、そういった労働環境なり、魅力のある会社にするっていうのは、もう、本当大前提だなど。これなくして、やはりこの数値を戻すっていうのは、難しいかなと思いますので、そこに向けた努力は日々行っていきたいと考えております。以上です。

(会長) ありがとうございます。では次お願いいたします。

(委員) 時間の都合上、単純な話として、都会に人が出ていくのは、いわゆる、ほぼほぼオフィスワークを求めて行くということだと思っています。都会とこの地域との差はそこで、もっと言えば土日祝休みの仕事が、今現在ハローワークの検索をしても市内に15件しかない。そのうち、15件のうち半数は、民間企業でもないです。教育機関だったり。信金さんも土日祝休みの仕事出されていましたが、あとはもう学校さんとか、そういった仕事になってしまっていると。つまり、事務系の仕事だとか、営業職だとかで、土日祝休みっていうのがそもそも少ないっていうのは、挙げられるだろうと思いますので、そういった仕事なり、雇用を生み出していくっていうことが、商工会青年部長としても、やっていけることがあれば、やっていきたいなと思っていますっていうのが1つと、あとは単純に、仕事だけじゃないので。アートとか、エンタメとか、人が幸せを感じられる、人が集まるようなものが、単純に少ないであろうということもあるので、文化庁の施策とか、色々私もちょっと参考にしながら、この地でできることを模索したいなと思うんですが、ぜひ、商工会なり、官公庁、他の団体とも連携しながらやっていけることがあったらいいなと思っていますので、何かあれば検討よろしくをお願いします。

(会長) ありがとうございます。では、副会長から。

(副会長) 色々、とても建設的な意見がたくさん出たんですけど、ちょっと私が気になったのは、八幡平市は、西根地区、松尾地区、安代地区、地区によって直面している課題がものすごく多様で、これはやっぱり市役所だけでカバーしていくのは難しいと思うので、各地域の、例えば公民館単位等で行われる自主的な活動を、市の皆さんに積極的に支援していただきたいという風に感じました。最近では総務省から、コミュニティに直接補助金とか活動資金を配分するような制度もできているようですので、それに採択されるような計画作りの支援とかを市の職員の皆さんにさせていただければ。これからもっともっと、人口は減少するけど、市の職員の定員はどんどんどんどん減っていく一方で、その行政の課題、もっともっと多様化していくという風に思われるので、その見通しをきちんと今からしていくことが必要なのではないかという風に感じました。以上です。

(会長) はい、ありがとうございます。事務局から回答もらおうかと思いましたがちょっと時間がないので、あとは個別に、この機会だけじゃなくて、やはり気付いた点があったらぜひ、市の方の関係課の方に、窓口の企画の方でもいいですから、ぜひ委員の皆さんから発言をどんどん出していただいて、市と皆さんが一体となって、この地域を変えていくっていう取り組みをしていただきたいという風に思っております。4の(2)はこれで終えたいと思います。5のその他について、事務局からお願いいたします。

## 5 その他

(1) デジタル田園都市国家構想総合戦略を勘案した地方版総合戦略の改訂について(企画財政課長) はい。会長、ありがとうございます。それでは、次第の5のその他でございます。(1)のデジタル田園都市国家構想総合戦略を勘案した地方版総合戦略の改訂についてでございます。

国では、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す「デジタル田園都市国家構想」の実現に向け、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂し、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を新たに策定してございます。地方においても、国の総合戦略を勘案し、地方版総合戦略を策定するよう努めなければならないとされていることから、本市においても、今年度中に地方版総合戦略の改訂を行う予定としているところでございます。改訂にあたっては、県の改訂と整合性を図り進めていくこととしており、年明け以降を目途に、本年度第2回目の有識者会議を開催したいと考えているところでございます。委員の皆さまにはご負担をおかけいたしますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。事務局からは以上となります。

(会長) はい、ありがとうございます。年度内にもう1度集まりますということですので。はい。それでは、事務局の方にマイクをお返ししたいと思います。

(企画財政課長) はい。その他、今、事務局からはその他ありましたけども、皆様方からその他ございますでしょうか。

(教育長) はい。あの、子どもたちのことが出ましたので、ぜひお話をさせていただかないと、ちょっと私も今日ここに来た甲斐がないなと思ってですね。何せ今、小中学生、そしてこれから生まれてくる子どもたちが将来の八幡平市を支えると考えた時に、ぜひ私の立場からも一言だけお話をさせてください。平館高校の副校長先生から、非常に危機感がある、なんとかして平高入学生を確保していかなければという話、教育委員会としても危機感を持っております。なんとか平館高校にと思うのですが、この少子化の状況が、盛岡市内の高校に入りやすい状況を作ってしまうということがあるわけです。つまり、倍率の低下というのが、平高もそうですけれども、盛岡市内の高校も倍率が低下して入りやすい状況ができてしまっている。そうしますと、これだけ交通網が発達して通いやすい場所にあるこの八幡平市ですから、やはり流れてしまっているわけですね。しかも、私立高校などはどんどん選択肢を魅力化させて、うちの高校に来てくださいというような宣伝もどんどんしていくという中であって、今、市内中学生の3割が、平高に留ませたいのですがそれを下回ってしまっている状況にあります。もう7割強が盛岡市内、滝沢方面の高校に流れてしまっているという状況があるわけです。

なんとかして、ふるさと八幡平市の良さ、ここに住むことの良さを小中学生のうちに、そして高校生のうちにしっかりと体感させたいわけですが、残念なことに、この自然の美しさ、食の豊かさ、人の良さというこの八幡平市の素晴らしさを、子どもたちは生まれながらにして当たり前のことと思ってしまっている部分がありまして。それを再度、なんとかしてやはり子どもたちに分からせていく必要があると思っているわけです。そのキーワードは、副校長先生がお話してくださった、いろんな人に出会わせる中で地の良さを知ってもらうということであろうと、私もそう思っています。つまり、様々な、農家に入っての体験活動であったり、いろんな企業の方々に関わってのキャリア教育の中で、いろんな体験をさせていただいている。そういう中で、こんなに頑張っている人たちが市にいるんだと、工夫している人がいるんだと、八幡平市を愛している人たちがこんなにいるんだということを、やはり小中学校のうちに体験を通して体感させていくということ、紙ベースではなくて体感、自分の体を通して知らしめていくということが必要であろうなという風に思っております。先ほど青年部の委員さんが魅力ある農業をというような話ありましたけれども、まさにそれなどもですね、子どもたちが体感できればですね、やってみたいというような子が増えていくのではないかなとも思います。

いずれ、この八幡平市には本当にたくさんの人材、素晴らしい方々がおりますので、これから先も、コミュニティスクール、市内の全小中学校で取り組んでおりますから、地域とともにある学校づくりという中で、地域の人たちすべてが子どもたちにとって

の先生だというような立場で接してもらいの中で、八幡平市の良さを子どもたちに伝えていければなど、そういう教育を進めていきたいなということをですね、ぜひ教育委員会の立場からお伝えさせていただきたいなと思っております。最後、時間いただきまして申し訳ありませんでした。

(会長) はい、ありがとうございます。

## 6 閉会

(企画財政課長) はい、ありがとうございました。その他、皆様から何かございますでしょうか。なければ、長時間にわたり大変ありがとうございました。以上をもちまして、令和5年度第1回八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議を終了させていただきます。本日は大変ご苦勞様でした。